

本校では、年2回の自己評価を行っています。1回目は8月（中間評価）、2回目は1月（最終評価）です。自己評価の資料として、7月と12月にご協力いただく児童アンケートや保護者アンケートなどを参考にしています。また、この自己評価は、客観性を高めるために、学外の関係者評価委員によって評価していただいています。この評価を学校評価と呼んでいます。本だよりでは、今年度の最終評価結果についてご報告いたします。

＜視点1＞【未来につながる学力を身につけた児童生徒の育成】

アンケート結果			自己評価	中間評価に対する取組	3学期・来年度に向けた取組	
児童生徒	家での目標勉強時間を守っている。	97%	↑	<p>【課題①】宿題・予習・復習の時間が短い</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連絡帳を見て時間割を合わせる指導を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ➡前の日に準備をするように、担任から指導した。 ○毎週末に、復習の自学に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ➡3年生以上で、毎週末に「千里の道も一歩から」の自学プリントに取り組み、よいものは掲示して紹介した。 ○学校だよりで、家庭学習についての再確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> ➡9月号で、家庭での学習時間の実態を掲載し、今後も家庭学習に <p style="text-align: right;">家庭学習時間に改善傾向あり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇家庭学習が予習や復習につながる事を継続して指導していく。予習復習系統表の活用。 ◇げんきもりもりチェックと連動させ、前日に次の日の準備ができるように習慣づける。 ◇自学プリントは、継続する。 ◇7・8年生でのミニビブリオバトルを、中期ブロックにも広げる。 	
	宿題は、忘れずに提出している。	97%	→			
	<1～4年>寝る前に家で授業の準備をしている。	60%	↓			
	<5～9年>宿題以外に授業の予習や復習をしている。					
	授業では、自分の考えを学級のみならずに分かりやすく話そうとしている。	87%	→			
	聞く人や話す場所を考えて、はっきりとした声の大きさと話している。	83%	→			
	授業（勉強）は、よく分かる。	93%	→			
よく本を読んでいる。（前期ブロック8回以上、56年40分以上、7～9年60分以上）	80%	→				
保護者	お子さんは、家での目標勉強時間を守っている。	80%	↑		<p>【課題②】読書量が増えない</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読書している本を平日も持ち帰る。 <ul style="list-style-type: none"> ➡100冊・5000ページの旅として、クラスで読書量が分かるように掲示し、児童生徒の読書への興味関心が続くようにした。 ○前期課程：読書集会、3連休の家族読書を行う。 ○後期課程：ミニビブリオバトルを実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ➡後期課程において、ミニビブリオバトルをすることで、読書への興味が高 <p style="text-align: right;">取組はしているが、目標に届かず</p>	<p>《学校関係者評価委員会から》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習について <ul style="list-style-type: none"> ・週末の自学プリントの取組等で、家庭学習に改善傾向が見られる。 ○読書量について <ul style="list-style-type: none"> ・学校では読むが、家ではあまり読まないと感じている。方法改善に向けて取り組む必要がある。 ・保護者評価のめやすとなる基準を提示する。
	お子さんは、毎日宿題をしている。	93%	→			
	お子さんは、寝る前に授業の準備をしている。	70%	↑			
	お子さんは、授業が「よくわかる」と感じている。	83%	→			
	お子さんは、家で読書をしている。	43%	↓			
教員	大谷小中スタンダードを踏まえて授業をしている。	100%	→			
	授業で、「I・WE・ALLで課題解決」（対話・振り返り）を意識して取り組んでいる。	100%	→			
	授業でICT機器を活用している（eライブラリのプリント等も含む）。	92%	→			
	わかる授業をするために、教材研究と指導法の工夫をしている。	92%	↓			
	「次の一手」を意識した授業改善を行っている。	100%	→			
	家庭学習について指導している。	100%	→			
	児童生徒が読書目標を達成するよう指導している。	83%	→			

＜視点2＞【心豊かに学ぶ、たくましい児童生徒の育成】

アンケート結果			自己評価	中間評価に対する取組	3学期・来年度に向けた取組
児童生徒	先生、友達や町の人に、自分から元気よくあいさつをしている。	87%	↑	<p>【課題③】家庭や地域で元気な挨拶ができない</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒会でも取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ➡グッドマナーキャンペーンを利用して、児童生徒会で挨拶運動を行った。 ○教師からの積極的な声かけをする。 <ul style="list-style-type: none"> ➡来客が来たら元気に挨拶をするよう声かけをしたり、道徳の授業 <p style="text-align: right;">児童生徒の意識向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇児童生徒会活動で、継続して挨拶運動を行う。 ◇教員から積極的に挨拶をする。 ◇学校内でも来校者に対して、挨拶を積極的にするよう指導する。 ◇地域に支えられていることを道徳などで学習し、
	友達となかよく遊び、困っている友達がいたら助けてあげようとしている。	97%	→		
	学校のきまりを守って、生活している。	77%	↓		
	先生は、がんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	93%	↑		
保護者	お子さんは、家族や町の人に自分から元気よくあいさつしている。	60%	↓		<p>《学校関係者評価委員会から》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶について <ul style="list-style-type: none"> ・学校の来客（知らない人）でも、大きな声で挨拶できればよい。 ・大人に近づいていけば、挨拶の意味が分かって、しっかり身につ
	お子さんは、楽しそうに学校へ行っている。	97%	→		
	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいる。	97%	→		
	学校は、思いやりや社会性、社会のルールを守る態度を育てようとしている。	97%	→		
教員	児童生徒は、自分から元気よくあいさつするよう指導している。	100%	→		
	児童生徒にリーダーとしての関わる力を育てるために、多様な交流が行えるよう指導している。（ブロック集会や児童生徒会による交流活動等）	100%	→		
	児童生徒観察、Q-U、いじめアンケートなどを生かして、よりよい人間関係を作ることができるよう適切に指導している。	100%	→		
	いじめの未然防止に対して迅速・適切に対応している。	100%	→		

<視点3>【自らの健康と安全に積極的に取り組む児童生徒の育成】

アンケート結果				自己評価	中間評価に対する取組	3学期・来年度に向けた取組
児童生徒	積極的に運動をしている。	80%	↑	B ↑	【課題④】就寝時刻が遅い ○元気もりもりチェックを活用して保護者と連携する。 ➡保護者から取り組む様子についてコメントをもらい、結果の分析と合わせて保 就寝時刻に改善傾向あり	◇3学期も引き続き就寝時刻を重点目標とし、げんもりチェック以外の期間も意識が継続するよう啓発する。 ◇就寝時刻の遅い児童生徒に個別指導し、家族で
	朝ごはんを食べて、学校へ来ている。	100%	→			
	家庭で決めた時間に寝ている。	73%	↑			
	テレビやゲーム、パソコンなどは、家庭のきまりを守って使っている。	90%	↗			
保護者	学校は安全や健康づくりに積極的に取り組んでいる。	83%	↓		【課題⑤】家庭でのルール（テレビ・ゲーム・パソコンなど）が守れない ○学校だよりで「家庭でのルール」について再確認する。 ➡非行被害防止講座の内容に触れ、保護者への協力をお願いした。 ○9月の学級活動、11月の保健指導で「元気もりもりチェック」を生かす。 ➡元気もりもりチェックの結果を活用し、ミニ保健指導で生活リズムや睡眠の大切さについて指導した。 ○ネット利用について、保護者向け学習会を開催する。 ➡全学年の保護者を対象とした「スマホ・ケータイ安全教室」の学習会を行い、 家庭でのルールは改善	《学校関係者評価委員会から》 ○「家庭でのルール（テレビ・ゲーム・PCなど）が守れないことについて ・ゲーム時間を守ろうとする意識はついてきている。 ・平日はミニバスや部活で忙しく、ゲームやパソコンをする時間がほとんどない。 ・市全体で見ると小学生でのスマホ所持率が高いが、本
	お子さんは、家庭で決めた時間に寝ている。	70%	↗			
教員	お子さんは、テレビやゲーム、パソコンなどについての「家庭のきまり」を守っている。	70%	↑		【課題⑥】地域学習へ取り組む意識がやや弱い ○総合的な学習の時間と関連付ける。 ➡総合的な学習の発表会では、地域の皆さんにれからの大谷地区に必要なことを提案することができた。 ○地域や学校行事等での事前指導を行う。 ➡地域行事への参加や学校行事に地域の人を招くことが、地域の活性化 中後期児童生徒の意識向上	◇行事の後、児童生徒を認める声かけや振り返りを充実させることで、地域貢献していることを実感さ 《学校関係者評価委員会から》 ○地域学習について ・地域の行事への参加率が87%だが、子ども達を見ていると、もう少しよくていいのではないかと
	児童生徒が発達段階に応じた運動をするよう指導している。	100%	→			
	家でのテレビやゲーム、パソコンなどの使い方について家庭のきまりを守るよう指導している。	100%	→			
	児童生徒に基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ等）が確立するよう指導している。	100%	→			
	児童生徒の健康や安全について適切に指導している。	100%	→			

<視点4>【ふるさとに誇りを持ち、広い視野に立って社会に貢献する児童生徒の育成】

アンケート結果				自己評価	中間評価に対する取組	3学期・来年度に向けた取組	
児童生徒	伝承クラブや地域の人・もの・ことからいろいろなことを学ぶことができる。	87%	→	A ↑	【課題⑥】地域学習へ取り組む意識がやや弱い ○総合的な学習の時間と関連付ける。 ➡総合的な学習の発表会では、地域の皆さんにれからの大谷地区に必要なことを提案することができた。 ○地域や学校行事等での事前指導を行う。 ➡地域行事への参加や学校行事に地域の人を招くことが、地域の活性化 中後期児童生徒の意識向上	◇行事の後、児童生徒を認める声かけや振り返りを充実させることで、地域貢献していることを実感さ 《学校関係者評価委員会から》 ○地域学習について ・地域の行事への参加率が87%だが、子ども達を見ていると、もう少しよくていいのではないかと	
	地域の行事には進んで参加している。	87%	↑				
保護者	学校は、ふるさとを大切に学習に積極的に取り組んでいる。	100%	→		【課題⑦】超過勤務時間の削減 ○退校時間のめやすを設定する。 ➡最終退校時間を19時30分に設定し、呼びかけることで時間を意識して帰宅するようになってきた。 ○効率的に働ける環境整備を行う。 目標達成	◇学期末に向けて業務が多くなるが、計画的に業務 《学校関係者評価委員会から》 ○業務の適正化について ・先生方も趣味に取り組む余裕があるべきだ。	
	本校の学校便りや学級だよりなど各種の通信は、学校の様子や必要な情報がよく分かる内容になっている。	93%	→				
	本校の教職員は、保護者の要望・相談に、誠実に対応している。	100%	→				
教員	本校の授業参観や行事は、保護者の方が参加しやすいようになっている。	93%	→		【課題⑦】超過勤務時間の削減 ○退校時間のめやすを設定する。 ➡最終退校時間を19時30分に設定し、呼びかけることで時間を意識して帰宅するようになってきた。 ○効率的に働ける環境整備を行う。 目標達成	◇学期末に向けて業務が多くなるが、計画的に業務 《学校関係者評価委員会から》 ○業務の適正化について ・先生方も趣味に取り組む余裕があるべきだ。	
	地域資源や地域の方々を生かした学習に積極的に取り組んでいる。	92%	→				
	学校便りや学級通信等、保護者に積極的に情報を発信している。	100%	→				

<視点5>【業務の適正化】

アンケート結果				自己評価	中間評価に対する取組	3学期・来年度に向けた取組
教員	時間外勤務が月60時間を超えないように業務等の取り組みを工夫している。	100%	↗	B ↑	【課題⑦】超過勤務時間の削減 ○退校時間のめやすを設定する。 ➡最終退校時間を19時30分に設定し、呼びかけることで時間を意識して帰宅するようになってきた。 ○効率的に働ける環境整備を行う。 目標達成	◇学期末に向けて業務が多くなるが、計画的に業務 《学校関係者評価委員会から》 ○業務の適正化について ・先生方も趣味に取り組む余裕があるべきだ。
	退校時刻を意識している。普段の退校時間は(19:00前が目安)	75%	↑			

- ↗ 5%以上増えている
 - ↑ 10%以上増えている
 - ↘ 5%以上減っている
 - ↓ 10パーセント以上減っている
- ※令和元年度1学期との比較



【学校評価の目的】

学校評価を行う目的は、第1に本校の教育活動や学校運営が適切に行われているかを評価し、学校として組織的・継続的な改善を図ること。第2に本校の結果を公表・説明して説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めることにあります。今後もご協力をよろしくお願い致します。